



# かるがも便り



68

発行

石神井まちづくりの会  
1月 4月 7月 10月の4回発行

代表兼編集者 下河秀行  
デザイン・構成 長安 透

## 今号の 記事内容

- 1面：練馬区西の拠点 石神井公園駅南口西地区のまちづくりは、今後どうなる？
- 2面：「社寺シリーズ」その⑩ ～下石神井天祖神社 & 石神井町大鳥神社～ 郷土史家…葛城明彦
- 3面：石神井公園ふるさと文化館の企画展「のぞいてみよう昔のくらし」 & 分館の関連イベント
- 4面：消費生活展ねりま2019、第7回「練馬シャンソン教室」発表会開催される、編集後記

## 賑わいを取戻すため「まちづくり地区計画」の早期実現を！

### ◆ 計画を進めるか、中止するか結論を！

練馬区西の拠点、石神井公園駅周辺地域で進められている「補助幹線道路 232 号線」と「再開発ビル」について本紙で何度も取り上げているが計画はなかなか進捗していないのが現状である。

現在同計画で問題となっているのが“車社会”から“人中心社会”時代に向かっているのに「補助幹線道路 232 号線」が今更必要かということである。石神井公園商店街の4つの幹線道路は、平成 24 年度に条例化された「地区計画」によって、暫時拡幅されることになっていることはご承知の通りである。更に公園通りや駅前通りのバスルートは、完成間近な補助幹線道路 132 号線に移行されることになっており、現在の錯綜する道路は緩和されることになっている。

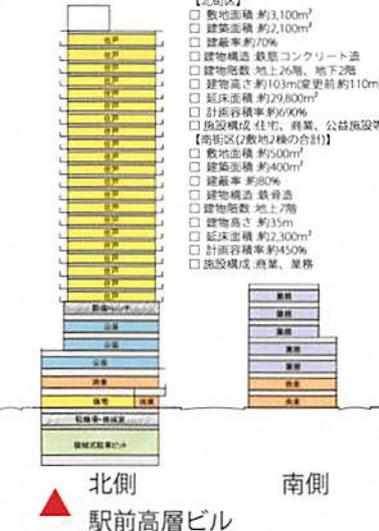
現代は、人口減、自動車減の時代である。このような時代の趨勢を考慮した上で果たして「駅前のサンメリーから富士街道」まで計画されている補助幹線道路 232 号線が必要だろうか？

■配置図および1F平面図



■概算事業費 約190億円

■断面図



更に、この道路計画に伴って補助幹線道路の北側に 26 階建て高さ 103m、地下 2 階の再開発ビルを、南側に 7 階建て高さ 35m が計画されていることに対し、地域住民には賛否両論がある。然しながら街の繁栄や将来性を考えると、このままでいいのかとの考え方もある。

### ◆ そこで新たな提案をしたい！

ここで具体的な提案だが、補助幹線道路 232 号線は、同計画道路の地権者を考慮して、取り敢えず歩行者専用道路として進め、再開発ビルは平成 24 年 8 月に条例化された【地区計画】に基づき、11 階建て 35m とする。即ち、他の都市がますます発展しているのに、石神井のまちはこのままでいいものかと疑問を抱く今日この頃である。石神井のまちの発展のためには、一日も早くいずれかに結論を出すべきではないだろうか。(下河秀行)

## 恒例 石神井公園 灯籠流し へのお誘い！

夏の風物詩、恒例行事「石神井公園ポート池灯籠流し」が今年も開催されます。

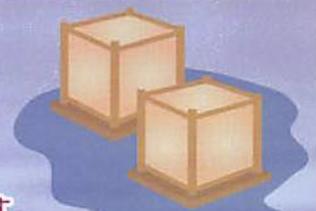
◎とき：令和元年8月3日(土)午後6時30分～8時30分

◎ところ：都立石神井公園石神井池(ポート池を中心に、その一帯)

◎小型灯籠は、当日一個500円で、先着750名の方に販売いたします。

\*当日は、華麗なる花火が公園一帯に上がりますので、ご家族お揃いで夕涼み方ご来場ください。

◎主催：石神井公園商店街振興組合 ◎協賛：練馬区



## 【石神井の寺社シリーズ⑩】(下石神井) 天祖神社・大鳥神社

### [(下石神井)天祖神社]

創立年代は不詳であるが、「豊島氏の時代(室町期)にはすでに社が存在した」とする説もある。鎮座しているのはかつて「鍛冶屋敷」と呼ばれていた場所で、これは「豊島氏の時代に鍛冶師がいた」ことに由来するという。また、近くに残る「伊保ヶ谷戸」の字名も、やはり豊島氏の時代に「鋳物師」がいたことから生じたものと伝えられている。



◀ 旧・  
下石神井村  
でもあつた  
天祖神社

神社の建つ付近には「神明前」との小字が残り、社前にある1674(延宝2)年の庚申塔には「石神井郷神明村」との村名が刻まれていることから、遅くとも江戸初期には神明祠もしくは伊勢の遥拝所が存在したと考えられている。なお、江戸後期に著された『新編武蔵風土記稿』下石神井村の項には、「神明社持前(三宝寺)二同ジ。村ノ鎮守ナリ」とあり、その頃までは「神明社」と呼ばれていたようであるが、一方明治初期の『東京府志料』下石神井村の項には「天祖神社八雲淡島ノ二神ヲ合祀ス社地二百四十九坪」と記されており、維新以降はすでに現在と同じ「天祖神社」の社名に変更されていたことが明らかとなっている。

社殿は1885(明治18)年の建築で、境内石造物では1857(安政4)年の燈籠が古く、その他境内には地藏菩薩立像(1717年=享保2年)、4個の力石なども残る。特に貴重なのは、正面に勢至菩薩、右側面に「武州豊嶋郡石神井村」、台石に造立者名などが記されている「廿三夜待供養塔(1816年=文化22年)。(練馬区登録文化財)

で、これはかつて区内でも「二十三夜待」(月を拝み飲食を共にする月待ち行事)が行われていたことを伝えるものである。境内では樹木はあまりみられないが、スダジイ・イチョウ・ケヤキなどの大木が若干茂っている。

### [大鳥神社]

石神井公園駅からは最も近くに位置しながらも、商店街から細い路地に入った場所にあるため、あまり知られていない神社である。

創立年代は不詳だが、『東京都神社名鑑』によれば、日本武尊が東国の蝦夷征伐のため付近を通過した際、石神井村に立ち寄ったことから、のちに村人がその徳を慕って奉祀した社が起源とされる。また、この一帯は古くから御鷹場として有名であり、昭和初期には氏子が甲府方面で射止めたという大鷹の剥製を、大鳥の名にちなむものとして奉納したこともあったという。



◀ 商店街の奥に  
ひっそりと建つ  
大鳥神社

社殿には大鷲神社と大黒天社の社名札が掛かっているが、この合祀されている「大黒天社」については、境内にある「大国主神御由來碑」(1932年=昭和7年)に「1929(昭和4)年、石神井駅前の20会員が協力して旧下石神井1317番地に社殿を建て、大宮黒塚山から分霊を勧請、昭和7年に現在地に遷した」と記されている。境内石造物は大鷲神社の社名碑(1936年=昭和11年)と鳥居(1940年=昭和15年)、水盤(年代不明)のみで、樹木もサクラが目立つ程度の小規模な社であるが、「商売繁盛の神」として、西の市の日には近郷からの崇敬者で大いに賑わっている。写真/文・葛城明彦(郷土史家)

安心・安全をサービスにおもてなし

石神井公園

また行ってみたい商店街へ

# 西友通り商店会

お買い物は防犯カメラが設置された安全な加盟店36店舗で



練馬区立

石神井公園ふるさと文化館

公益財団法人練馬区文化振興協会

<https://www.neribun.or.jp/furusato.html>

催し物のお知らせ

石神井公園ふるさと文化館

練馬区石神井町 5-12-16 ☎03-3996-4060

## 👁️ 企画展「のぞいてみよう昔の暮らし」

会期：2019年6月22日（土）～8月12日（月・休）※観覧無料

会場：石神井公園ふるさと文化館 2階企画展示室およびギャラリー

■昔は電気やガス、水道はなく、いろいろな道具を工夫して使い、くらしていました。

昭和30(1955)年代以降、家電製品など便利なくらしの道具がだんだんと普及し、住まいやくらしのスタイルが大きく変わってきました。本展では、そうしたくらしの移り変わりを、明治から昭和にかけて使われていた道具を中心に展示し、衣・食・住といった昔のくらしを紹介します。



## 関連イベント

◇ふれあい土曜事業「紋きりと和紙で作る行灯」

日時：8月3日（土）①13時～ ②14時～

会場：石神井公園ふるさと文化館 多目的会議室

定員：各回20名

参加費：200円

申込：不要（当日先着順）

※詳細は石神井公園ふるさと文化館HPをご覧ください。



常設展示

石神井公園ふるさと文化館分室

練馬区石神井台 1-33-44 ☎03-5372-2572

会期：開催中～2020年3月29日（日）※観覧無料

会場：石神井公園ふるさと文化館分室1階「練馬区ゆかりの文化人」展示室

■分室の常設展示が今年4月からリニューアルオープンしました。6つのテーマをもとに、練馬区ゆかりの文化人を紹介しています。昭和20年代から30年代に作家や画家が多く滞在した「石神井ホテル」（通称）の間取り図やエピソードをはじめ、少女漫画家が集ったアパート「大泉サロン」の様子、作家・田中小実昌の書斎再現など、見どころあふれる展示となっています。

展示室中央では練馬区ゆかりの絵本作家・児童文学者の作品をゆっくりお読みいただけるコーナーもあります。ぜひお越しください。



感謝のセレモニー

株式会社マキノ祭典

ご葬儀に関する事なら何でもご相談ください

24時間  
安心ダイヤル

フリーダイヤル

0120

ヨイ セレモニー

0120-41-7062

■本社：東京都練馬区上石神井4-9-24

■営業所：大泉・中村

TEL:03-3929-1040

マキノ祭典

検索

明朗会計!

～第49回「消費生活展ねりま2019」盛大に開催される～

◎と き：令和元年6月15日(土)・16日(日)午前10時～午後4時  
 ◎ところ：池袋線石神井公園駅北口 石神井公園区民交流センター  
 消費生活について、消費者団体18団体と協賛団体が日常の消費生活について役経つ情報を【展示パネル】を使って説明しながら情報を提供した。会場は老若男女が沢山集まり、各団体の説明を聞き入っていた。石神井まちづくりの会は、久しぶりの【消費生活展】参加で、石神井の住よいまちづくりを目指し、1. 石神井のまちづくりについて、2. 【危険な富士街道】から【安心・安全な富士街道】の展示、3. 石神井今昔の展示、4. 石神井公園ガイドマップの配布などを行った。  
 今年の消費生活展はクイズラリーも大変好評だった。  
 同展は、毎年 練馬区消費生活展実行委員会と練馬区(消費生活センター)が共催して開いて49回を数える歴史ある【消費生活展】である。



練馬シャンソンを楽しむ会主催 ～第7回「練馬シャンソン教室発表会」～



練馬シャンソン教室は今年創設12周年を迎え、練馬区と近郊のシニアが健康増進と趣味を兼ねて毎月日曜日に2回、懐かしいシャンソンをいきいきと歌っている。日頃の成果を発表するためにレッスンに励んでおり、第7回シャンソン発表会は200人余りの入場があり、大変盛況であった。  
 ◇日時：5月28日(火)午後1時～4時まで開演した。  
 ◇場所：池袋線大泉学園駅北口「ゆめりあホール」  
 ◇出演：第1部 生徒発表 第2部 生徒&講師 黛ようこ  
 ◆主催：練馬シャンソンを楽しむ会  
 「練馬シャンソン教室」

●●●●● 編集後記 ●●●●●

平成時代は、4月30日をもって終幕し、5月1日から元号は【令和】となり、われわれは、早や昭和、平成、令和と三代生き続けることになった。新元号 令和の出典は、国文学者の中西進氏によれば、604年に聖徳太子が制定したと伝えられる十七条憲法の平和精神を重視したとされる。令和の出典は、大伴旅人が730年に開いた宴で、万葉集 巻第五 梅花の歌 三十首併せて序 初春の令月にして、気淑く風和ぎ、梅は鏡の粉を披き、蘭は珮後の香りを薫す。からと言われている。これで、再び万葉集が今後脚光を浴びることになるだろう。特に私は新元号ゆかりの地、福岡県太宰府市で20年近くを過ごし、この6月に訪ねた。大宰府で「梅花の宴」が開かれたというので、ひとしお懐かしく思いをはせている。この令和の時代が、どのような時代になるのか、戦争のない平和で豊かな時代であって欲しいものである。しかし、戦争は無くても、日常は悲惨な事件が絶えず、安心して過ごせる時代ではないようだ。(下河秀行)

<p><b>Shimizu Dental Clinic</b>                  シミズ デンタル クリニック                  歯科・小児歯科・矯正歯科・歯科口腔外科                  練馬区 石神井町 3-17-15 KYビル1階                  石神井パークロード商店街 銀座通り                  診療時間 9:00～18:00 月曜～土曜                  お休み 13:00～14:00                  日曜 祝祭日 年末年始 休診                  03-6913-3517                  http://firstmolar.jp/</p>	<p>治療計画立案・虫歯治療                  院長 清水 雄一郎</p>	<p>入れ歯(義歯)担当                  石崎 憲</p>	<p>小児歯科担当                  大澤 枝里</p>	<p>矯正歯科担当                  吉岡 美幸</p>	<p>主任 歯科衛生士                  山縣 純子</p>
	お悩みに、優しく温かく対応する歯科医院です。詳しくはホームページをご覧ください。				

石神井まちづくりの会 ご意見やご連絡は、電話またはFAXをご利用下さい。  
 TEL&FAX 03-5393-7381 携帯 080-6607-4321 (H・S)

かるがも便りは、区民交流センター・石神井庁舎・え〜る・石神井&南田中図書館・ふるさと文化館・勤福会館等にあります。